

部局FD活動報告

①都市教養学部 人文・社会系、人文科学研究科		
取り組みの現状	学生による授業評価等	夏に人文・社会系のFDアンケートというものをを行い、授業についての学生の意見をどのように汲み上げ、授業の改善に活かすか、についての調査を行った。これをうけて年度末には、それぞれの教室が独自の方法で、これに取り組むことになった。たとえば、レポートを提出する際に授業の感想を書いてもらい、他の教員にも役立つ有益な意見があれば、教室会議の時に披露してもらい、それをFD委員がまとめる、などである。
	研究会・講演会・セミナー等	人文的な知のあり方とは何かをめぐり、仏文教室の西山雄二准教授が監督した映画『哲学への権利』の上映会を行い、その後石川知宏、岡本賢吾、福岡健二、宮台真司の各教授を交えて公開ディスカッションを行った。
	外部評価等	特に行っていないが、大学全体の教育における認証評価とFD委員が一緒に関わっているため、評価への取り組みも必要であろうという問題意識をもっている。
今後の予定・展望		授業についての学生の意見をどのように汲み上げ、授業の改善に活かすかに関して、大部分の教室では取り組みがはじめられているが、まだすべての教室で行われているわけではないので、この点での改善が求められる。また汲み上げられた有意義な意見を、どのような形で集約し、各教室で共有していくかについて議論していく必要がある。

②都市教養学部 法学系 法律学コース・政治学コース		
取り組みの現状	学生による授業評価等	現在、通年開講の専門教育科目（15科目）を対象とした、学生による授業評価アンケートを実施中である（1月26日現在）。年度末までに、法学系FD委員会において集計結果をまとめ、各担当教員にフィードバックし、来年度以降の教育活動の改善に役立ててもらおう予定である。
	研究会・講演会・セミナー等	「法学系FD委員会」（「大学院社会科学研究所法学政治学専攻FD委員会」と合同。大学院（社会科学研究所法学政治学専攻）主任、FD委員、教務委員、基礎教育部会委員で構成）において、授業評価アンケートの質問項目の選定をはじめ、法学系のFD活動のあり方について議論をした。
	外部評価等	第三者評価機関による大学機関別認証評価に備え、自己点検・評価委員会での議論を踏まえて、「自己評価書」を作成した。
今後の予定・展望		<ul style="list-style-type: none"> ○これまでに5年度にわたって実施した授業評価アンケートの結果を、個々の教員のレベルにおいて、自らの担当する授業や教育環境の改善に反映させていく。 ○法学系のFD活動のあり方に関する法学系FD委員会における議論をより活性化させる。 ○各専門領域の教員間で、カリキュラムや講義のあり方について検討する機会を定期的に設け、法学系全体の教育効果の改善・充実につなげていきたい。

③社会科学研究科 法学政治学専攻		
取り組みの現状	学生による授業評価等	各クラスの受講者数が極めて少ないため、学生による授業評価はなじまない。授業の効果は、研究者養成を主眼とする大学院の場合、修士論文・博士論文といった成果によって、間接的に評価されるべきものとする。
	研究会・講演会・セミナー等	(全体) 「法学系FD委員会」(「大学院社会科学研究科法学政治学専攻FD委員会」と合同。大学院(社会科学研究科法学政治学専攻)主任、FD委員、教務委員、基礎教育部会委員で構成)において、社会科学研究科法学政治学専攻のFD活動のあり方についても検討した。 (法律学分野) スタッフ・院生全員が参加する「法律学総合演習」を定期的に開催し、研究・教育水準の向上に努めている。 (政治学分野) ○3月・8月を除く毎月、教員・院生全員が参加する「政治学総合演習」を開催し、研究・教育水準の向上に努めている。 ○上記「政治学総合演習」終了後、政治学分野の教員による「スタッフミーティング」を開催し、大学院の教育及び研究指導等に関する意見交換を行い、実質的なFD活動を行っている。 ○2007年度から、新たに「政治学FD会議」を設置した。今年度は、前期2回(4月17日(土)、7月17日(土))、後期2回(10月16日(土)、2月5日(土)(予定))開催した。政治学FD会議は、政治学分野に所属する全教員・院生で構成される。学期初の回(4月・10月)では、教員が当期の講義・演習の概要・趣旨等を説明し、意見交換を行う。これを踏まえ、学期末の回(7月・2月)では、学期初に掲げた授業目標の達成度等に関する情報交換を行うと共に、講義・演習に参加した院生との意見交換を行い、授業内容の改善に努めることとしている。この取り組みは、過去4年間の実績の検証も踏まえ、来年度も継続していく予定である。
	外部評価等	第三者評価機関による大学機関別認証評価に備え、自己点検・評価委員会での議論を踏まえて、「自己評価書」を作成した。
今後の予定・展望	第三者評価機関による大学機関別認証評価が義務付けられていることに加え、2007年度から大学院FDの実施が求められていることから、法律学・政治学総合演習等を中心とした自己点検・評価及びFD活動のさらなる充実に向けた検討を、法学系FD委員会を中心に行っていく予定である。	

④社会科学研究科 法曹養成専攻		
取り組みの現状	学生による授業評価等	2004年度設置以降、各年度とも学期ごとに、法科大学院の教育等の改善及び充実のためのアンケート調査を、すべての法科大学院生を対象に実施している。このアンケート調査において、すべての授業科目について学生による授業評価を行うとともに、あわせて授業内容や方法、学習支援体制(オフィスアワーなど)、施設や設備等に対する要望等を尋ねている。授業評価のほか、授業に関する要望について当該科目の担当教員にフィードバックし、教育活動等の改善に役立てている。また、このアンケートで挙げられた要望等をFD会議で検討し、学習環境の改善に役立てている。
	研究会・講演会・セミナー等	①FD会議等の実施 毎月1回、授業を担当する教員から構成されるFD会議を開催し、学生の学習状況や授業方法等についての情報の共有化を図るとともに、法科大学院における教育等についての意見交換を行っている。さらに、専門領域ごとにFDに関するミーティングを適宜開催している。 ②各種の団体が実施するセミナー等への参加 法科大学院教育、新司法試験、第三者評価等に関して、法科大学院協会、大学評価・学位授与機構、日弁連等の各種団体が実施する検討会やセミナー等に参加している。
	外部評価等	2004年度は、法科大学院設置申請に際して、文部科学省による教員審査を受けている。また、2004年11月、2005年7月に文部科学省による法科大学院設置年次計画履行状況実地調査を受け、2006年11月に、文部科学省による法科大学院設置計画履修状況面接調査を受けた。さらに、2008年度には、法定化されている大学評価・学位授与機構による法科大学院認証評価(第三者評価)を受け、適格の認定を受けた。 なお、2007年度以降、法科大学院の各年度における自己点検・評価結果については、外部委員による評価を行い、年度ごとの自己評価書を公表している。
今後の予定・展望	2008年度の法科大学院認証評価の結果を踏まえ、法科大学院における教育・研究の質の向上を実現すべく、上記のような取り組みを継続する。 しかし、継続的に上記のような取り組みを実施し、法科大学院をよりよいものとするために人的体制を整備する必要があることは、文部科学省による法科大学院設置計画履修状況の面接委員、法科大学院認証評価結果等において指摘されているところである。 したがって、今後も、優秀な教員を採用するための人事枠・制度の拡充、正規雇用職員の増員を中心とする事務体制の整備、これらを可能にする予算措置を至急講じなければ、適正な法科大学院の運営はきわめて困難である。	

⑤都市教養学部 経営学系		
取り組みの現状	学生による授業評価等	本年度は前期（6月7日から6月18日）と後期（11月15日から11月30日）の2回、学生による授業評価アンケートを実施した。それぞれ9科目と33科目の規模で行い、のべ履修者数はそれぞれ1,400名と3,371名である、回答率はそれぞれ14.4%と21.4%であった。
	研究会・講演会・セミナー等	経営学系では基礎数学・基礎経済学など複数の教員が担当する科目があるが、本年度はこれらについて中長期的なローテーションの予定を整備し、学生サービスの維持向上のための検討を行った。
	外部評価等	特になし
今後の予定・展望		アンケート調査だけに頼るのではなく、教員間で頻繁に意見を交換し合うことで、授業内容等の改善に取り組んでいく。

⑥ビジネススクール		
取り組みの現状	学生による授業評価等	本年度は前期（7月10日から7月23日）と後期（1月7日から1月26日）の2回、学生による授業評価アンケートを実施した。それぞれ23科目31科目の規模で行い、のべ履修者数はそれぞれ376名と284名である。前期の回答率は50.5%であった。（本調査票記入日において後期の結果はまだでない。）
	研究会・講演会・セミナー等	本年度入試から研究教育プロジェクトとして関連領域の教員による集団的な指導の体制を整え、学生への研究・教育指導の一層の向上を図った。
	外部評価等	文部科学省・大学院G P（昨年度終了）では5段階評価中4と高い評価を得た。本年度はこれを受けて、首都大版大学院G P「公共経営の人材育成プログラム」を実施した。来年度に向けて再び検討中である。
今後の予定・展望		アンケート調査だけに頼るのではなく、教員間で頻繁に意見を交換し合うことで、授業内容等の改善に取り組んでいく。

⑦都市教養学部 理工学系		
取り組みの現状	学生による授業評価等	従来に引き続き、理工学系6コースのすべての専門科目の授業評価（SEおよびTE）を実施した。集計結果は個々の担当教員に示すと同時に理工FD委員会で討議し、課題や授業改善の到達状況を共有化することに努めた。また共通基礎科目・専門科目のすべてについて、各教員が行った成績評価の結果を集計し、評価基準について議論した。 これらに加えて、今年度は新たに以下の取組みを実施した。①過去3年間のアンケート結果の経年変化をグラフ化し、概ね評価が上昇していることを確認すると共に、今後の課題の検討を行った。②理工学系の全教員に対して、授業評価アンケート結果を踏まえて行った改善点などを記述する二次アンケート調査を実施した。③授業評価アンケートが実際に授業改善に生かされていることを認識してもらうために、①②の結果をまとめたリーフレットを作成し、学生および教員に配布した。
	研究会・講演会・セミナー等	毎月理工学系FD委員会を開催し、各コースにおけるFD活動の報告と意見交換を行うと共に、授業アンケートの方法、成績評価基準、セミナー実施など理工系として検討すべき事項について議論をしている。 今年度は理工学系独自のセミナーは実施せず、全学委員会が5月に実施したFD・SD宿泊セミナーと10月に実施したFDセミナーにそれぞれ講師を派遣し、また2月に開催予定のFDセミナーについても2つの講演の講師を派遣することにした。
	外部評価等	昨年度（21年度）9月に実施された理工学系・大学院理工学研究科の外部評価において、理工学系のFD活動に対して高い評価を得た一方、PDCAサイクルのActionの部分の充実を求める意見、特に授業評価アンケート結果を具体的・かつ有効な改善内容に結びつけるシステムの構築が必要との指摘を受けた。これを受けて、今年度は新たに上記①～③の取組みを行った。 今年度（22年度）は全学の認証評価が実施された。評価結果はまだ刊行されていないが、昨年12月に行われた訪問調査において、理工学系のFD活動に関する指摘はなかった。
今後の予定・展望	今年度初めて行った上記①～③の取組みを引き続き行い、授業評価アンケート結果を具体的かつ有効な改善内容に結びつけるシステムとして定着させる。	

⑧理工学研究科		
取り組みの現状	学生による授業評価等	従来に引き続き、6専攻において個々に大学院生に対するアンケート調査を行い、理工学系FD委員会でその結果を審議している。大学院生の場合、授業を受講する時間より、研究室で研究活動に費やす時間が圧倒的に多いことを考慮して、大学院講義に対する評価に加え、研究に対する満足度、研究環境、並びに研究、勉学へのサポート体制に対する要望収集も質問項目に含めている。FD委員会のみでは改善が困難な場合は、適宜教務委員（大学院担当）、専攻長、研究科長等と相談し、改善を図っている。
	研究会・講演会・セミナー等	理工学研究科では、各専攻においてカリキュラムや講義内容を検討する会合を持ち、授業改善と研究環境改善に関する施策を日々行っている。また毎月理工学研究科FD委員会を開催し、各専攻におけるFD活動の報告と意見交換を行うと共に、学生アンケートの方法、セミナー実施など理工学研究科として検討すべき事項について議論をしている。なお、今年度は専攻独自のセミナーは行わず、全学委員会が5月に実施したFD・SD宿泊セミナーと10月に実施したセミナーにそれぞれ講師を派遣し、また2月に開催予定のFDセミナーについても2つの講演のFD講師を派遣することにした。
	外部評価等	昨年度（21年度）9月に実施された理工学系・大学院理工学研究科の外部評価において、理工学研究科のFD活動、特に前記の大学院生に対するアンケートについて高い評価を得た。 今年度（22年度）は全学の認証評価が実施された。評価結果はまだ刊行されていないが、昨年12月に行われた訪問調査において、理工学研究科のFD活動に関する指摘はなかった。
今後の予定・展望	3年前から始めた大学院FD活動の実施状況をまとめると共に、実施方法の一層の改善を図り、次年度以降のFD活動を多様化していくことをめざしている。	

⑨都市環境学部、都市環境科学研究科		
取り組みの現状	学生による授業評価等	当該年度の前期および後期の各コース専門科目について、従前通り学部学生による授業評価アンケートを実施した。対象科目は原則として、非常勤担当科目、実験・演習科目、受講者数が5名程度以下の科目、を除く全科目とした。地理環境では、実験・演習科目についてもコース独自の授業評価アンケートを実施した。 アンケートは各科目の担当教員に対しても実施し、アンケート結果および自由記述の内容を各担当教員に配布し授業改善に努めた。
	研究会・講演会・セミナー等	全学で実施するFDセミナーや講演会に参加し授業改善のための情報収集を行った。
	外部評価等	特になし
今後の予定・展望		学生による授業評価・教員による授業評価を有効に活用して授業改善の取り組みを今後も原則として継続する予定である。

⑩システムデザイン学部		
取り組みの現状	学生による授業評価等	システムデザイン学部専門科目について、開講された授業（演習、実験科目を除く）の学生による授業評価アンケート調査を実施（前期開講科目：2010年7月に実施、後期開講科目：2011年1月実施）した。アンケート結果を各科目毎にまとめ、各授業担当教員にフィードバックし、授業改善に努めた。また各質問項目毎の集計結果を教授会報告するとともに、学生に対しては、システムデザイン学部・研究科ホームページへの掲載、集計結果概要を昨年と同様に、リーフレット配布の形で公開した。なお、2010年後期の授業において、授業アンケートの時期と内容に柔軟性を持たせるための試みとして、学期途中のアンケートをBlackboardシステムを用いて行うことを試行的に7つの講義に対して行い、Blackboardシステムによる授業アンケートや学期途中授業アンケートの効果について検討を行った。
	研究会・講演会・セミナー等	2010年10月7日開催の首都大学東京FDセミナー（単位制度の実質化シリーズ No.2～学生の自発的学習を促す～：於南大沢キャンパス）、2011年2月23日開催の第2回FDセミナー（基礎・教養教育のさらなる改善と再構築にむけて：於南大沢キャンパス）のネット中継による日野キャンパス会場開催、参加を試行した。また、12月16日(木)に早稲田大学 尾澤重知氏による「大学教育を変える教育業績記録－ティーチング・ポートフォリオ入門－」をテーマに、学部・研究科合同でFDセミナーを開催した。
	外部評価等	特になし。
今後の予定・展望		今後も学部・研究科合同のFD部会を定期的で開催し、FDの共通認識の形成 具体的取り組みの実施検討を行う。学生による授業評価について、その実施方法にさらに検討を加え、継続して行う。また、授業アンケート結果の教員へのフィードバックの方法や教員に対するアンケートの反映のさせ方についても検討を行う。さらに、授業アンケートの質問項目の再検討や個々の教員の授業改善へ繋げていく方策など検討していきたい。

⑪システムデザイン研究科		
取り組みの現状	学生による授業評価等	システムデザイン研究科専門科目について、開講された授業（演習、実験科目を除く）の学生による授業評価アンケート調査を実施（前期開講科目：2010年7月に実施、後期開講科目：2011年1月実施）した。アンケート結果を各科目毎にまとめ、各授業担当教員にフィードバックし、授業改善に努めた。また各質問項目毎の集計結果を教授会報告するとともに、学生に対しては、システムデザイン学部・研究科ホームページへの掲載、集計結果概要のリーフレット配布の形で公開した。
	研究会・講演会・セミナー等	2010年10月7日開催の首都大学東京FDセミナー（単位制度の実質化シリーズ No.2～学生の自発的学習を促す～：於南大沢キャンパス）、2011年2月23日開催の第2回FDセミナー（基礎・教養教育のさらなる改善と再構築にむけて：於南大沢キャンパス）のネット中継による日野キャンパス会場開催、参加を試行した。また、12月16日(木)に早稲田大学 尾澤重知氏による「大学教育を変える教育業績記録－ティーチング・ポートフォリオ入門－」をテーマに、学部・研究科合同でFDセミナーを開催した。
	外部評価等	特になし。
今後の予定・展望		今後も学部・研究科合同のFD部会を定期的で開催し、FDの共通認識の形成 具体的取り組みの実施検討を行う。学生による授業評価について、その実施方法にさらに検討を加え、継続して行う。また、授業アンケート結果の教員へのフィードバックの方法や教員に対するアンケートの反映のさせ方についても検討を行う。さらに、授業アンケートの質問項目の再検討や個々の教員の授業改善へ繋げていく方策など検討していきたい。

⑫健康福祉学部		
取り組みの現状	学生による授業評価等	荒川キャンパスFD部会を9回、意見交換会を1回を開催した。 健康福祉学部荒川キャンパスで行われている学部授業について、非常勤講師による授業を含め前期・後期の授業評価アンケートを実施した。 専門科目の授業評価アンケートに関する内規と取り扱い細則を定めた。
	研究会・講演会・セミナー等	平成23年2月3日（木）学部FDセミナーを実施した。 開会の挨拶 健康福祉学部長・人間健康科学研究科長 繁田雅弘 講演 SE・TEアンケートの考え方とデータの活用について 本学副学長・大学教育センター長 上野 淳 先生 学生の自発的学習の促すための取り組み例紹介－都市教養プログラム－ 放射線学科教授 篠原広行 ヘルスプロモーションサイエンス学域教授 藤井宣晴
	外部評価等	実施なし
今後の予定・展望		先進的なFD活動をしている保健医療系大学への訪問調査 FD関連書籍、報告書の収集

⑬人間健康科学研究科

取 り 組 み の 現 状	学生による授業 評価等	荒川キャンパスFD部会を9回、意見交換会を1回を開催した。 学域によっては大学院生との懇談会やアンケートを実施した。
	研究会・講演 会・セミナー等	平成22年7月10日（土）大学院FDセミナーを実施した。 開会の挨拶 人間健康科学研究科長 繁田雅弘 講演 大学院におけるFD活動とTF制度 清水一彦 先生 筑波大学副学長（教育担当）
	外部評価等	実施なし
今後の予定・展望	先進的なFD活動をしている保健医療系大学院への訪問調査	

